

アンコールワットみやげ、クッキーいかが

カンボジアで日本人女性
がアンコールワットをかた
どったクッキーなどを商品
開発し、事業を軌道に乗せ
た。「原材料は地元産、経
営は日本流」を貫き、ほと
んど洋菓子のない同国で新
たな名物を生み出した。政
情不安が続く発展途上の地
で、地元も潤す起業精神を
発揮している。

群馬出身・小島さん開発 カンボジア新名物に



遺跡群で有名なシエムレ
アの道路沿いに「クメイ
ルアンコールフーズ」の本
社工場兼店舗がある。プラ
ンド名は「マダムサチコ」。
群馬県出身の社長小島幸子

さん(33)の写真Ⅱの名から
取った。

材料はカシューナッツや
ハス茶。しやれた包みのコ
ーヒー豆やコショウも店に
並べ、日本人客らが次々訪
れる。販売を始めた2年前
の1カ月分を今や1日で売
り、従業員は2人から24人
に増えた。

募集を知り、やってきた。
観光ガイドも務め、日本人
客から「食べ物のおみやげ
は」と聞かれ、趣味を生か
したクッキー作りを思いつ
いた。

食しないと教育した。
在カンボジアの外国人は
官民とも援助関係者が大半
で、旅行業や飲食店を除け
ば起業はまれだ。NGOな
ら免税などの特典があり、
商品を売る団体もあるが、
小島さんは会社の形にこだ
わった。「商売で利益を上
げ、税金を払う。当たり前
のことがこの国には必要」
と思うからだ。

2周年となる来月、従業
員に首都と海を見せるため
社員旅行をする。

日本語教師をしていた99
年、この街の日本語学校の